

コロナ禍においても 「主体的・対話的で深い学び」へ向かう工夫

主体的な学び への工夫

工夫：旋律づくりにおけるタブレット利用

♪ 音楽

小学校4学年 音楽づくり 【本時の内容】

「歌のにじ」の副次的な旋律（4小節分）を考える場面から



学習問題

音の選び方を工夫して、「せんりつづくり」をしよう

思いや意図をもとにタブレット上で旋律をつくる姿

上手に
つくりたいな



Aさん：これでいいか。
先生：どんな作品になった？
Aさん：（音程が）上がったたり下がったり。
先生：なんでその工夫をしたのかな？
Aさん：おもしろくしたかったから。
〔Aさんの学習カード〕
上がったたり下がったりしておもしろくなった。

友の作品の良さを認めたり音の重なりを味わったりする姿

友だちと合わせて
みたい

2台のタブレットを同時再生。
「せーの！」<クリック！>



♪ Aさんの旋律 ミファド ファシド
♪ Bさんの旋律 ソファソ レ シド

Bさん：最後のところは同じだね。
Aさん：うんうん。
Bさん：歌と同じ音を使えば気持ち悪い
感じにならないね。
Aさん：音が重なって不思議な感じがして
きれいな音が出たね。
Bさん：もう一回やってみよう。

もっと
良くしたいな

自分の作品を見つめ直す姿

（Bさんと合わせた後）
Aさん：やっぱり「ド」は違う気がするな。
「ミ」にするとどうなるかな？

♪ Aさんの旋律 ミファミ ファシド

Aさん：なんかいい！！



みんなに聴いて
もらいたいな

タブレットの音楽作成ソフトは、入力した音符をすぐに演奏したり修正したりできます。そのため、子どもたちは**楽器の演奏技能を心配することなく**、自分の旋律を納得いくまで作りあげることができたよ。試行・思考を繰り返しながら自分の思いや意図に合う音楽を追求する主体的な学びが生まれたね。また、改めて自分の作品を見つめ直すことで、新たな課題を発見する深い学びにもつながったね。



令和2年11月28日（土）長野県総合教育センターを会場に開催される予定でした学社連携・協働フォーラムは、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、ネット視聴による受講へ切り替えての開催となりました。講師の西祐樹さんの講演動画を、12月4日より配信しています。西さん自身が行政職員として関わった、福岡県春日市の実践から、地域と学校が連携・協働するためのポイント、可能性を学びました。

演題 「地域とともにある学校づくり、その可能性について」

講師 文部科学省 総合教育政策局 地域学習推進課 地域学習推進係 係長 西 祐樹さん



◇なぜ、地域と学校が連携・協働するのか

- 社会に開かれた教育課程の実現には、地域と学校の連携・協働が必要。
- 「あの人のようになりたい」教師には、青年と社会人を引き合わせる役割がある。
- 地域も学校も同じ方向を向き、それぞれに子どもを育む当事者意識が必要。コロナ禍だからこそ、学校がお願いするのではなく、地域が提案し地域が動きたい。

◇当事者意識

- 地域と学校が、ともに目標をつくることで、それぞれが子どもを育む当事者となる。学校がつくったものに「OK」や「BAD」を出すのではなく「Let's」になる。
- 子どもを育む取組に関わる地域の大人も「学びがある」と実感することで、当事者意識を高めていく。

◇行政職員の参画

- 行政職員が当事者意識をもつ。学校づくり、まちづくりに主体的に関わり、施策に反映。行政と学校、地域がつながる。
- 子育て支援、不登校等の課題対応に、行政職員ならではの専門性が発揮できる。

◇議論しよう～目指す方向性を共有するために～

- 活動することが目的になっていないか。目標を熟議し、目標を達成するために自分が何ができるか議論する。当事者意識になっていくこのプロセスが大事。
- 学校と地域が議論し、それぞれにできることを考えて実行した結果、1,000件以上あった補導件数が、1～2件に激減！という事例も。
- 学校と地域が議論をし続けることで、教員が異動しても、持続可能な取組になる。

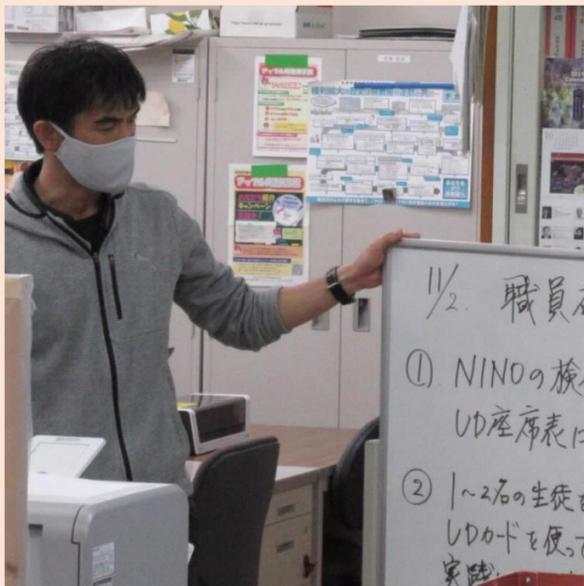
Point



◆12月28日（月）まで、講演動画をYouTubeで限定公開配信しています。視聴希望の方は、生涯学習課までご連絡ください。
TEL：0263-40-1977 FAX：0263-47-7840 E-mail：chushinkyō-shogai@pref.nagano.lg.jp

信州型UD推進校 松川中学校の取組 を紹介します

2年目となった今年度は、
おもに学校で取り組んでいく着眼点を
「**困っている子どもへの合理的配慮**」
に設定し、次のような取組をしています。



UDリーダー
三枝邦幸先生

- テーマ 「個に応じたUDの教科指導」
- 取組① 授業における3つの視点＋振り返り
(時間の構造化, 授業の視覚化, 授業の焦点化・共有化)
- 取組② UD座席表
(授業のお助けアンケートとNINO: 認知能力検査)

全校生徒に実施した【授業のお助けアンケート】
と「NINO（認知能力検査）」のデータをもとに、
職員研修で結果を検討し座席表にまとめます。

【授業のお助けアンケート】

授業中に次のことがありますか？ あてはまる場所に○をつけましょう。	ない	たまにある	時々ある	よくある
1 黒板を写すときに、何度も見ないと写せないと思うことがありますか。				
2 音読の時に、文字を目で追うことができないと思うことがありますか。				
3 授業中、先生の口だけの説明ではわかりにくいと思うことがありますか。				
4 友達の考えを聞いて、話し合いながら学習するのが苦手であると思うことがありますか。				
5 先生の説明後、活動を始めるときに、自分が何をしようかわからないと思うことがありますか。				
6 ノートやプリントを決められた時間の中で書くことができないと思うことがありますか。				

UD座席表

	本人	認知
黒板を何度も見る		2
文字を目で追えない	○	
口頭説明がわからない	○	
話し合いが苦手		
説明だけではわからない		
時間までに書けない	○	

職員研修（11月）の様子から

職員研修の流れ

- NINOの検査結果をUD座席表に入力する。
※NINO: 認知能力検査
- 1~2名の生徒を抽出し、UDカードを使って授業実践について考える。
- 交流を図る。

UDはその視点
だよね。その
誰にもわかる
具体的な例を
示すかな。



私、説明が長いときがある。短くしたいが、
あるので、短くしたいが、
伝えるのが難しい。みんなに
伝えるのが難しい。みんなに
伝えるのが難しい。みんなに



【授業のお助けアンケート】から見えてきた子どもの困難点をもとに、
各教科でどんなことかできそうか、子どもに寄り添って考えることを
大切にしているんだね。

外国籍児童生徒等指導研修会（Zoom）

「日本語指導教室と通常学級との連携のあり方について」

コロナ禍
でも研修
できる！

11月6日(金)に、Zoomを使ってのリモート研修会を行いました。塩尻市立桔梗小学校の先生方による実践発表をもとに、通常学級との連携の仕方について意見交換が行われました。

桔梗小学校の取組3本柱

- 1 個別の指導計画の作成
- 2 保護者との連携・保護者への支援
- 3 日々の授業での支援

【保護者とのコミュニケーションの取り方の工夫②
ラインやメールなどの活用】
(↓)両親ともブラジル由来。来日して間もない。



保護者との連携の工夫



Zoomで実践発表をする桔梗小学校の先生方



意見交換をしている参加者のみなさん

参加者の声

保護者、学級担任、日本語指導者の三者が児童生徒の成長、学びのために何ができるかを情報共有することの必要性と重要性を実感しました。今後、担任の先生方とも研修をおこないたいです。

個別の支援計画を作成する際に、通常学級でも「日本語教育」という視点での指導項目が立てられていることが新鮮でした。担任と日本語支援員の連携の仕方は、顔を合わせてのやり取りが大切なので、お互いの教室を行き来して、子どものエピソードを積み重ねることが大切だと学びました。



学校に通う全ての子どもたちが、楽しくて分かる授業で、力をつけたいと願っているよね。

そのために、**子どもたちに関わるみんなが、子どもの抱えている困り感に寄り添いながら、力を合わせる必要**があるんだね。

一人一台端末の活用に向けて②



前回の号では、一人一台、タブレット等が学校に届くことを見据えて、タブレット貸与式を行うアイデアや、端末に番号を貼り付ける、電源の確保など、最初に準備が必要になってきそうなことについてお伝えしました。今回は、そうした準備が整った上で、「**タブレットを、授業や学校生活でどう活用できそうか**」について、先生方と一緒に考えたいと思います。



日記帳として

普段家庭学習で児童生徒が書いている「**日記**」を、**帰りの会に、教室で、タブレットを用いて書いてみて**はどうでしょうか。毎日タブレットを開く習慣ができたり、文字を打ち込むタイピングの練習の機会になったりしそうですね。また、文字の打ち込みを先生方も支援する機会にもなりそうですね。



ノートとして

文字の打ち込みに慣れてきたら、**タブレットをノートとして用いる**こともできそうですね。保存して簡単に記録に残すことができますし、慣れてくれば写真や資料も取り込んだノートができますね。また、プロジェクターにつないで、ある児童生徒のノートをみんなで見ることにも可能になりますね。



カメラ・ビデオとして

カメラやビデオとしての機能を使うことも有効ですね。小学校生活科で、見つけた生き物を写真に撮ってくる、体育の跳び箱の活動で、お互いの跳ぶ姿をビデオ機能で撮影して、自分や友の跳び方のよさやよりよくしたい点を見い出す、国語のスピーチをビデオ機能で撮影し合って見る、理科で実験の様子を撮影するなど、様々な場面で活用できそうです。

端末が来る前に、授業で、学校生活で、どんな活用ができそうか、想像を膨らめておくと、端末が来てすぐに活用が始められそうですね。**NITS「児童生徒の協働的な学びにおけるICT活用」**と検索すると、他にもたくさん活用例が紹介されています。ぜひ見てくださいね！

※一斉に起動すると、インターネットがつながりにくくなることもあるようです。登校したらすぐに電源を入れることを習慣にしていけるといいですね。

